

2026年度 信州大学 全学教育センター 公開講座

土曜市民教養教室

信州大学は地域貢献を目的に、一般市民の方々を対象とした本講座を開講しております。

コース 1	生成 AI を活用できる毎日	p. 2
コース 2	日本は「会計」の力がすごかったPART 2～明治から平成、そして世界へ！！～	p. 4
コース 3	The Warm War: Climate Change and the Battle for Truth, Power and Energy	p. 5
コース 4	基礎から学ぶ教育心理学	p. 7
コース 5	総合人間科学研究の最前線！	p. 9
コース 6	「日本文学 100 年の名作」に酔う	p. 11
コース 7	クマのプーさんの世界 ― 英語で楽しむプーさんとその舞台への旅	p. 12
コース 8	異文化コミュニケーション入門	p. 14
コース 9	「学び」をデザインする ～生涯学習を楽しむための心理学～	p. 15
コース 10	基礎から学ぶ発達心理学	p. 17
コース 11	続・フランス詩歌の魅力	p. 19
コース 12	アメリカの TV ドラマをスクリプトと映像で楽しむ ― Are You Afraid of the Dark? を教材に英語と文化を学ぶ	p. 21
コース 13	大人のための数学再発見 ― 数学教育の視点で学ぶ、つながる数学―	p. 23
コース 14	タイル張りの数理 (注1)	p. 25
コース 15	河川が作る地形・地質を学ぶ ～現場をよく見て納得する～ (大塚コース) (注2)	p. 27

(注1) 「コース 14 タイル張りの数理」は、「全3回、受講料5,400円」です。

(注2) 「コース 15 大塚コース」の日程、受講料、申込方法等も、他のコースとは異なります。(詳細 p. 31)

受講料・日程表等	p. 29
開講場所・申込方法	p. 30
問い合わせ先	p. 32

コース1：生成AIを活用できる毎日

講師 鈴木 治郎 （信州大学 特任教授）

2022 年末に登場した ChatGPT の影響により、私たちの暮らす世界は変わってしまいました。ビジネスシーンの競争環境でならば、AI をパートナーとしてよりよく進むのか、それとも使わずに消えいくのかの状況に入りました。本講座では、そこまで発達した AI 技術をふだんの生活へと反映させるためのヒントを、毎回の演習を通じてつかんでください。

【ご注意】

持ち物：スマートフォンまたはノートパソコン

※ インターネットに接続できる環境が必要です。大学の Wi-Fi (ゲスト ID) はご用意しますが、接続が難しい場合はご自身のモバイル通信をご利用ください。

生成AI アプリについて：

講座では、ChatGPT または Google Gemini を使います。

事前にアプリが入ってなくても大丈夫ですが、インストールはご自身で行っていただく形になります。講座内でのインストール作業のサポートはできませんので、ご了承ください。なお、AI に関する哲学的・抽象的な議論は行いません。

第1回：5月16日（土） 10:00～11:30

アプリの活用に慣れよう

生成 AI アプリの利用を通じて、どのようなことが現在できるのか、さまざまな体験を通じて概観します。

第2回：5月23日（土） 10:00～11:30

幻覚（ハルシネーション）とは何だろう

生成 AI アプリの実行結果は必ずしも正しくないという欠点（ハルシネーションの生成）が指摘されています。それらは実際に問題となるのでしょうか。多くの事例体験を通じて、ハルシネーションとどのように付き合うべきかを考えます。

第3回：6月6日（土） 10:00～11:30

試験勉強に活用しよう

私たちは学生時代を卒業しても、さまざまな資格やスキルを身につける必要に迫られます。一方で、こうしたことを勉強する場合、身につけるべき目標は明確です。そのような場面での AI の活かし方を、多くの事例を通じて体験します。

第4回：6月20日（土） 10:00～11:30

生活管理を手伝ってもらおう

前回の話題でもそうですが、一定のスケジュールに沿って何かを進めることは、私たち人間にとって楽ではありません。また日常生活では調整すべき事柄を多く抱えるものです。そうした場面での AI の活かし方を、多くの事例を通じて体験します。

第5回：7月4日（土） 10:00～11:30

原理を知り将来を予想しよう

AIにおいても、技術の進展により現在の常識が書き換わることは珍しくありません。最後のまとめとして、今までに体験した事柄の背景にある基礎理論に触れながら、すぐに機能更新の期待できる技術、なかなか克服することの困難な技術について、それぞれどんなものがあるのか、考えを深めます。

コース2：日本は「会計」の力がすごかった PART 2

～明治から平成、そして世界へ！！～

講師 田村 徳至 (信州大学 総合人間科学系 教職支援センター 准教授)

昨年度は、大和朝廷から明治維新の頃までのわが国の「会計」に焦点を当ててお話をしてきました。今年度はPART 2として、明治初期から平成時代、そして世界の会計についてお話をいたします。最近の経済状況についても適時お話をする予定です。昨年ご受講されていない方でも大丈夫です。簿記・会計の知識・スキルは必要ありません。

一緒に「会計」の視点から日本と世界の歴史に飛び込んでみませんか。

第1回：5月16日 (土) 10:00～11:30

明治・大正・戦前(昭和2年度の長者番付は?)

今回は明治期から昭和前期までと幅が広いですが、長者番付や南満州鉄道の収益、当時の納税方法など今とはかなり様子が違うことがうかがえます。

第2回：5月23日 (土) 10:00～11:30

高度経済成長期とバブル時代の会計

昭和60年当時、新潟県の地元新聞「新潟日報」に「東京都湯沢町」という見出しの記事が出ました。高度経済成長期とバブル時代の会計に迫ります！

第3回：6月6日 (土) 10:00～11:30

失われた30年・・・平成時代の会計事情は??

1990年代～2000年代は会計ビッグバン！！という時期です。何がどのようになったのか、そして、なぜ「ライブドア」は摘発されたのかに迫ります！

第4回：6月20日 (土) 10:00～11:30

THE世界の会計1 会計の始まり「イタリア」

レオナルド・ダ・ヴィンチ、絵画「トビヤスと天使」、映画『ヴェニス商人』から15世紀のイタリアにおける銀行・会計事情に迫ります！

第5回：7月4日 (土) 10:00～11:30

THE世界の会計2 金融・経済に関するゲーム体験

最終回は、金融・経済に関するゲームを通して、間接金融と直接金融のしくみを学んでいただくと考えています。

コース 3 : The Warm War: Climate Change and the Battle for Truth, Power and Energy～

講師 ブライアリー マーク アラン (信州大学 全学教育センター 准教授)

気候変動をめぐる、科学・エネルギー・力の関係から、現実になにが起きているのかを追っていきます。講義は英語で行い、専門用語に頼らず、分かりやすい英語で進めます。英語を話せる必要はありません。

Around half of all fossil fuels ever burned have been burned since the Berlin Wall fell. This is decades after we understood the consequences of climate change, which is no longer a distant or abstract problem. It is driven by physical laws, shaped by scientific knowledge, resisted by power, constrained by time and waiting for justice. This course explores the systems behind climate change: how energy and heat work, how science establishes truth, how doubt is manufactured, whether technology can offer a way forward, and who bears responsibility as time runs out. Participants are invited to understand not just what is happening, but why it is so difficult to act. “We are on a fast track to climate disaster” – António Guterres.

第1回：5月16日 (土) 10:00～11:30

Energy and Heat: Climate Change as a Physics Problem

気候変動は、エネルギーと熱の物理法則によってどのように起こるのか。

Climate change is driven by energy and heat. What is energy, how does it move, and why does heat accumulate? We explore the greenhouse effect, first described scientifically in the 19th century by Svante Arrhenius. We look at how sunlight enters the system, how energy leaves it, why adding greenhouse gases changes this balance and why the Earth has not yet turned into Venus or Mars. We also look at feedback mechanisms such as ice and water vapour, and find why more energy in the climate system leads to more intense weather. By the end of the lecture, participants understand that climate change is a consequence of basic physical laws, not a belief or opinion. “Nature cannot be fooled” – Richard Feynman.

第2回：5月23日 (土) 10:00～11:30

Truth and Science: How We Know Things

科学はどのように「真実」に近づき、なぜその過程が不安や反発を生むのか。

We examine how science works and how we decide what is true. Science is not a collection of fixed facts, but a process of asking questions, building models, testing ideas, and trying to prove that we are wrong. Scientific knowledge changes over time not because it is weak, but because it improves. Through historical examples ranging from the shape of the Earth to Newton and Einstein, we show how scientific models can be extremely useful even when they are incomplete. Probability, evidence, and confidence are discussed to show that uncertainty in science does not mean ignorance. We also consider how scientific truth is different from legal truth, religious belief, or political opinion. “Science advances one funeral at

a time” – Max Planck.

第3回：6月6日（土） 10:00～11:30

Science and Power: Why Facts Struggle in the Real World

科学的知識が権力や利害と衝突する中で、どのように疑いがつくられ、拡散されるのか。

History shows that resistance often follows when science challenges economic interests or threatens existing power structures, political authority, or deeply held beliefs. Climate change provides a clear modern example, but the pattern is not new. We examine how doubt can be deliberately created and spread, not necessarily to disprove science, but to delay action. Common tactics include cherry-picking data, demanding impossible levels of certainty, and framing scientific consensus as “just another opinion.” There are psychological factors such as confirmation bias and group identity. We see that denial is not about misunderstanding science, but about protecting interests. “It is difficult to get a man to understand something, when his salary depends on his not understanding it” – Upton Sinclair.

第4回：6月20日（土） 10:00～11:30

Power and Energy: Technology got us here, can it get us out?

技術は現代社会を築いてきましたが、それだけで解決策になり得るのか。

What is the relationship between energy, technology, and power? We see how modern society has been built on technological innovations that make energy cheap and abundant. Changes to the energy systems are slow, complex, and politically sensitive, but renewable energy and electrification offer more energy, at lower costs than ever. Energy efficiency is one of the most powerful and often overlooked tools for reducing emissions, as well as reducing costs and increasing comfort. However, as far back as the 19th-century economist William Stanley Jevons showed that improvements in efficiency can lead to more overall energy use rather than less.

“The cheapest, cleanest, and safest energy is the energy we do not use” – Jimmy Carter.

第5回：7月4日（土） 10:00～11:30

Justice and Time: Responsibility, Delay, and the Future

誰が責任を持ち、どれだけの時間が残されているのかを公平性の視点から考えます。

We bring together science, power, and energy by focusing on justice and time. Climate change raises fundamental questions about responsibility: who caused the problem, who benefits from the current system, who suffers first and who suffers most? We discuss the unequal impacts of climate change across countries, generations, and social groups, and why delay matters. Climate change is slow in human terms, but fast in geological terms, and many decisions lock in consequences for decades. If we could shop our way out of climate change, the problem would already be solved. What can we do at an individual, societal, and political level? “We are now faced with the fact that tomorrow is today” – Martin Luther King Jr.

コース4：基礎から学ぶ教育心理学

講師 横嶋 敬行 (信州大学 総合人間科学系 教職支援センター 助教)

学校や家庭、職場など、私たちが「学ぶ」「教える」場面は生涯にわたって存在します。しかし、「人はどのように理解し、覚え、やる気をもって学ぶのか」について、体系的に学ぶ機会意外と多くありません。教育心理学は、学びの背後にある心の働きを科学的に捉え、よりよい学習や成長を支えるための基盤となる学問です。

本講座では、「認知の発達」「学習のしくみ」「記憶のメカニズム」「学力や知能の考え方」「やる気(動機づけ)」といったテーマを取り上げ、人が学ぶ仕組みを基礎から学んでいきます。心理学が初めての方でも気軽に参加できるように、身近な例を交えながら丁寧に解説します。「なぜ覚えたはずのことを忘れてしまうのか」「努力しているのに成果が出ないのはなぜか」「やる気はどうすれば続くのか」など、日常生活や仕事、子育てにもつながる話題を通して、学ぶことへの見方を一緒に広げていきましょう。

第1回：5月16日(土) 10:00～11:30

学びの土台：認知発達の特徴

学びを考える際には、その人がどのような発達段階にあるのかを知っておくことが、大切な土台になります。本講義では、幼児期から老年期までの認知(考える力・理解する力)の発達の特徴について、基礎的な知識を概説していきます。なお、より詳しく学習したい方は、私のもう一つの講座「基礎から学ぶ発達心理学」で学ぶことができます。

第2回：5月23日(土) 10:00～11:30

学習の理論

「ある出来事が起こると、思わず特定の反応をしてしまう(以前はそうではなかったのに)」という経験はありませんか。本講義では、そうした反応がどのように身につくのかについて、条件づけによる学習の考え方や、潜在学習・観察学習などの認知的な学習理論を取り上げ、基礎的な内容をわかりやすく概説していきます。

第3回：6月6日(土) 10:00～11:30

記憶のメカニズム

学校のテスト前に、英単語や漢字を何度も繰り返して覚えようとしたのに、いざ本番になると思い出せなかった、という経験は多くの方にあるでしょう。本講義では、記憶がどのように形成され、どのように活用されるのかという基本的な仕組みをふまえながら、記憶に残りやすい学習方法の基礎について概説していきます。

第4回：6月20日(土) 10:00～11:30

学力と知能

テストの点数が高ければ「頭がいい」と考えられていた時代は、すでに過去のものになりつつあります。近年では、多様な学力観や知能観が提案され、「賢さ」の捉え方も大きく変わってきました。本講義では、こうした学力や知能に対する考え方の変化をふまえながら、現代社会において求められる力について、基礎的な視点から概説していきます。

第5回：7月4日（土） 10:00～11:30

やる気のメカニズム

どれだけ効率的な学習方法を用いても、その効果は「やる気（動機づけ）」によって大きく左右されます。本講義では、内から生まれるやる気（内発的動機づけ）と、外から促されるやる気（外発的動機づけ）の基本的な仕組みを紹介するとともに、学びを支える立場にある人が知っておきたい関わり方のポイントについて、基礎的に概説していきます。

コース 5：総合人間科学研究の最前線

土曜市民教養教室と関わりの深い信州大学総合人間科学系には、文系／理系の垣根を越えて、さまざまな分野の研究者が所属しています。

本講座では、総合人間科学系に所属する5名の研究者を講師に迎え、各専門分野の研究動向や研究成果をみなさんと共に紐解いていきます。

これまでのご好評に応え、2026年度も新しい内容となっております。ぜひご参加ください。

【講師と専門分野】 オムニバス形式（担当順）

- 小池 洋平（憲法学／比較憲法学（アメリカ））
- 高木 丈子（環境政策・生物多様性）
- 橋本 萌（教育史／教育学）
- 田村 徳至（教育学）
- 今津 道夫（植物病理学）

第1回：5月16日（土） 13:00～14:30

アメリカ「建国」250周年—独立宣言が果たした役割を考える：小池 洋平

2026年7月4日、アメリカは「建国」250周年を迎えます。ここで250周年の起点とされているのは、アメリカ独立宣言です。この宣言は、「すべて人は平等に造られ、造物主によって一定の奪われざる権利を与えられ、その中には生命・自由・幸福追求への権利が含まれる」ことを「自明の真理」と謳いあげ、建国の理念として掲げました。

しかし、建国当時から、アメリカはこの理念と矛盾する制度を抱え込んでいました。それは奴隷制です。第1回では、奴隷制廃止に至るまでの道筋で、独立宣言が果たした役割について考えてみたいと思います。

第2回：5月23日（土） 13:00～14:30

人間と野生生物～どのように共存を目指してゆくか～：高木 丈子

最近毎日のようにニュースで流れる野生生物と人間活動との軋轢。2025年の秋は全国各地でクマの出没が騒がれました。松本市街にほど近い場所でも目撃がありました。また、高山に登ると今までは見ることが少なかったサルやイノシシなどの動物を目にしたという目撃情報が、SNSでも流れてきます。

変わったのは、動物か人間か。それとも何でしょうか？野生生物・鳥獣行政の変遷をたどり、野生生物との共存のために自分たちにもできることを考えてみましょう。

第3回：6月6日（土） 13:00～14:30

修学旅行の歴史：橋本 萌

子どもの頃、修学旅行はどこに行きましたか？学校行事の中でもとりわけ修学旅行は、子どもたちにとって深い記憶として刻まれることが多く、懐かしい思い出が一つ二つと思い浮かぶのではないのでしょうか。第3回では、修学旅行の成り立ちをひもとき、子どもたちが修学旅行で何を学んでいたのかに思いを馳せてみませんか。夜行列車での伊勢参宮旅行を事例に、懐かしい昭和初期の学校行事の記憶をたどります。

第4回：6月20日（土） 13:00～14:30

なぜ不要なものを買ってしまうのか・・・行動経済学の知見から迫る！：田村 徳至

私たちは合理的に行動しているようにみえて、自分でも気づかないうちに非合理的な行動をしています。今回は、ニーズとウォンツについて、売り手の手段・工夫と買い手の目的・欲求などを行動経済学の知見を基に迫ってみたいと思います。

第5回：7月4日（土） 13:00～14:30

菌類と植物～カビとキノコの生態学～：今津 道夫

私たちにとって身近な存在であるカビやキノコなどの菌類は、生態系において分解者としての重要な役割を担っています。とくに菌類は植物との間にさまざまな相互関係をもち、落ち葉や枯れ木を分解する腐生生活や生きた植物に寄生して病気を引き起こす寄生生活、さらにはマツタケなどの菌根菌のように植物と共生生活をするものなどその生態はきわめて多様です。こうした菌類と植物の相互関係に焦点を当てて菌類の不思議な生態の一端を紹介したいと思います。

コース6：「日本文学100年の名作」に酔う

講師 株丹 洋一 （信州大学名誉教授 元教養部および人文学部）

優れた短編小説は、年代物のワインのように私たちを酔い痴れさせ、今日生きている喜びと明日を生き抜く力を与えてくれます。それは、他では得難い深い喜びと強い力です。

レディーグレイの紅茶でのどの渇きを癒すように、ゆったりと満ち足りた時を一緒に過ごしてみませんか。

第1回：5月16日（土） 13:00～14:30

林真理子「年賀状」

美人で資産家の娘と結婚し、ふたりの子供に恵まれながら、結婚後も強引さを武器に女性を口説き続ける主人公の葛西に女性たちはどう対応するのでしょうか？

第2回：5月23日（土） 13:00～14:30

吉村昭「梅の蕾」

都会のエリート職を捨てて、東北の僻村の診療所長に就いた堂前医師が、妻の病死の後も村に留まったのはなぜでしょう。この小説を読んで心を動かされない人がいるのでしょうか。

第3回：6月6日（土） 13:00～14:30

辻原登「塩山再訪」

子どもの頃は成績もよく幸せだったのに、学校を出てからは不幸な人生が続いている主人公の私に、恋人の有子と訪れた故郷の塩山でどんな体験が待ち受けていたのでしょうか。

第4回：6月20日（土） 13:00～14:30

村田喜代子「望潮」

昔、九州の簗島には、観光客を乗せたタクシーに本気で突っ込んで死んだ腰の曲がった当たり屋の老婆が何人もいたそうです。老婆たちはなぜそんなむごたらしい死を遂げたのでしょうか。

第5回：7月4日（土） 13:00～14:30

浅田次郎「ラブ・レター」

歌舞伎町の裏ビデオ屋の店長高野吾郎は、名義貸して結婚した会ったこともない中国人妻白蓮の死を刑事から聞かされ、仕事仲間のサトシとともに、身柄を引き取りに千葉県の手賀池に行くのですが、なぜ帰りの列車の中で周囲も憚らず号泣したのでしょうか。

コース7：クマのプーさんの世界

ー 英語で楽しむプーさんとその舞台への旅

講師 近藤 富英 (信州大学 特任教授)

くまのプーさん「Winnie-the-Pooh」の物語を英語で少しずつ読みながら、作品の魅力や時代背景、作者 A. A. ミルンの世界を解説します。また、ロンドンや物語の舞台となった森について、写真などを用いて紹介し、実際に聖地を訪れたような気分も味わっていただきます。英語については丁寧に説明しますので、英語が得意でない方や、久しぶりに英語に触れる方でも安心して参加できます。プーさんが好きな方、物語や英国文化に興味のある方を歓迎します。英語は中学校程度で大丈夫です。

取り上げる箇所ですが、A. A. ミルンは「Winnie-the-Pooh (1926)」と「The House at Pooh Corner (1928)」の二冊の童話を書いています。今回は前者の第一話を中心に上げます。英米や日本でもさまざまな英語のペーパーバックや文庫等も出版されていますが、お持ちの方はご持参ください。お持ちでない方にはこちらで資料を用意します。

第1回：5月16日（土） 13:00～14:30

プーさんの物語、はじまり はじまり！

(プーさんからのごあいさつ)

ぼくのことを書いてくれたのは、ぼくと仲良しのクリストファー・ロビンのお父さん、A. A. ミルンです。学生時代から詩や随筆を書いていたそうだけど、ぼくにはちょっとむずかしいな。詩や随筆って、「はちみつ」よりおいしいのかな？

<物語の冒頭を丁寧に読みながら楽しめます。また、プーさんの名前の由来や、作者ミルンについても分かりやすく解説します。>

第2回：5月23日（土） 13:00～14:30

プーさんの住んでいる場所ってどんなところ？

(プーさんからのごあいさつ)

ぼくにはたくさんの仲間がいるよ。みんなを連れてきてくれたのはミルンおじさんなんだ。ぼくはデパートから来たんだよ。英語も少し書けるけど、頭の中は綿だから、ときどきまちがえちゃうんだ。

<物語を読みながら、作者ミルンの住んでいたロンドンの町や、プーさんのモデルとなったクマがいたロンドン動物園を紹介します。>

第3回：6月6日（土） 13:00～14:30

プーさんの大好きなものは何でしょう？

(プーさんからのごあいさつ)

ぼくが生まれたのは1926年。今年で、ええーと……100歳！ エリザベス女王と同じ年に生まれたんだ。でもぜんぜん年はとらないよ。歌も歌えるしね。だって、ぼくたちは魔法の世界にいるんだもの。

<物語を楽しみながら、プーさんの性格や魅力、仲間たちが少しずつ増えていく面白さを紹介します。>

第4回：6月20日（土） 13:00～14:30

「はちみつ」のためなら何にでもなるよ！

（プーさんからのごあいさつ）

ミルンおじさんは1956年に72歳で亡くなったけど、ぼくたちはいつも元気。クリストファー・ロビンも、いつも一緒だよ。ぼくたちの絵を描いてくれたのは、H. シェパードさん。縫いぐるみの写真より、絵のほうが好きなんだ。

＜物語を読みながら、挿絵の魅力や、ミルン一家が暮らしていたロンドンの家についても紹介します。＞

第5回：7月4日（土） 13:00～14:30

「はちみつ作戦」大・失敗！？

（プーさんからのごあいさつ）

ぼくの本は子どものために書かれたけど、大人の人たちも読んでくれるんだ。子どもの心を持った人が、ぼくたちの住む魔法の国に会いに来てくれるんだね。

＜最終回では、物語を楽しみながら、物語の故郷・アッシュダウンの森 (the Ashdown Forest) への旅行の仕方などをご紹介します。全体を振り返り、プーさんの世界の魅力を改めて味わいます。＞

コース8：異文化コミュニケーション入門

講師 仙石 祐 （信州大学 総合人間科学系 グローバル化推進センター 准教授）

グローバル化が進む現在社会では、言葉・食事・生活習慣など様々な背景が異なる人々とのコミュニケーションが重要になります。この講座では異文化コミュニケーションを巡る5つのトピックスを取り上げます。異文化の人たちと円滑にコミュニケーションをとりながら友好的な関係を築くのに役立つ知識とスキルを分かりやすく講義します。また講義には信州大学で学ぶ留学生も参加し、対話しながら授業を進めます。なお使用言語は日本語です。（英語は不要です。）

昨年度も開講した講座ですが、新たに参加する留学生もいますので、昨年度に受講された方もぜひ受講をご検討ください。

第1回：5月16日（土） 13:00～14:30

データで見る多文化共生と世界の学生モビリティ

最近、外国人労働者や留学生をよく見かけるようになり、多文化共生という言葉が耳にできるようになりました。多文化共生とはどういうもののでしょうか。長野県や日本で多文化共生がどのように進んでいるか、データをもとに紐解きます。また世界の留学生の移動が日本に与える影響を考えます。

第2回：5月23日（土） 13:00～14:30

自文化中心主義と文化的相対主義、IDC と国際適応力診断テスト

他の国々からの労働者や留学生が増え、様々な国の文化に触れる機会が多くなりました。皆さんは、異なる文化に対してどのようにとらえていますか。皆さんが自文化中心主義から文化的相対主義に至る過程を、IDCと言われる物差しで測ります。また国際適応力診断テストで、皆さんが世界で活躍できる素質があるかも測ります。

第3回：6月6日（土） 13:00～14:30

マレーシア・中東・ブラジルの多文化融合

様々な文化が会う機会が多い国の例を見てみましょう。多文化融合の例としてマレーシア・中東・ブラジルを取り上げ、日本と異なる個別の事例を学びます。どのような状況なのでしょう。

第4回：6月20日（土） 13:00～14:30

氷山モデル、ステレオタイプ、コンテクスト

異文化コミュニケーションの基礎として、異文化に適応するための代表的な理論とモデルを紹介します。どんな理論とモデルなのでしょう。それらの理論とモデルを使って日本と世界の文化を比較します。

第5回：7月4日（土） 13:00～14:30

「やさしい日本語」講座

日本において異なる文化をもつ外国由来の人たちに大事な情報を伝えたり、コミュニケーションをとるのにどのような日本語を使えばよいのでしょうか。そのような場面に適している「やさしい日本語」を、実際に留学生と対話しながら学んでいきましょう。

コース9：「学び」をデザインする

～生涯学習を楽しむための心理学～

講師 藤川 真美乃 （元信州大学 全学教育機構 特任助教）

この講座は、「学ぶ」ことについて、一度丁寧に向き合いたい、自分に合う方法を習得したい、という方に向けた講座です。人生100年時代と言われる中、生涯学習に熱心に取り組まれる方が多くなりました。大人は自立した学習者であり、興味に応じて知識が広がることはそれぞれに喜びがあります。しかしながら、モチベーションを維持することや、いつもの習慣や思い込みから、知識を活かしにくいと感じることはありませんか。実は、「学ぶ」ことは「頭で覚える」ことが中心だと思われがちですが、時間や身体の使い方、モチベーションの維持にもかなり工夫が必要です。また「学ぶ」方法を改善していくことにも、楽しさがあります。心理学では、「学ぶ」ことについていくつかの効果的な方法が生み出されています。それを体験いただき、「自分に合った学習方法」の気づきを得て、より豊かな楽しく学び続ける生活へと繋げることができればと思います。

第1回：5月16日（土） 13:00～14:30

「心」を整えて学習する

なぜ学びたいか、という目的を一度掘り下げることは強いモチベーションの維持に必要になります。また学びを深めていくときには、感情の活用も大切です。“成長マインドセット”を持ち、また進化的にも備わった適切な感情を活用することは、学習のモチベーションの維持だけでなく、偏った考えに陥らず正しさを求める姿勢につながるようになります。初回では、これらに関連する認知の罣や、学ぶ心を維持するための方法について話をします。

第2回：5月23日（土） 13:00～14:30

「場所」を選んで学習する

どこで学ぶのか、によって集中できるかが変わります。人は社会的な生物であり、他者が多くいる空間では、他者の動作や意図を自然に確認してしまい、認知に負荷がかかることがあります。あるいは学習が慣れてきたときには、2種類の作業を交互にしたり、学習に負荷をかける方がはかどることがあります。“興奮レベルを最適化する”ことが学びの環境にとっても大切です。これには人の特性に対する理解も必要となります。第2回では思考に心地よい環境を作ることについて話をします。

第3回：6月6日（土） 13:00～14:30

「身体」を使って学習する ―覚えやすい方法1―

どう学ぶか、の工夫に身体の活用があります。学習というと、座って静かに行うイメージがあります。しかし、運動と共にする、あるいはジェスチャーを使用することで、理解しやすくなるということがあります。頭の中に全てを置かないことで、認知的な負荷を下げるができます。第3回では、典型的な学習するイメージを払拭し、体を動かしたり、声に出したりすることが効果的であることを体験いただく回にします。

第4回：6月20日（土） 13:00～14:30

「感覚」を磨いて学習する 一覚えやすい方法2ー

どう学ぶか、の工夫に感覚の活用もあります。身体の内側を感じる“内受容感覚”を活用することで、集中力や判断力が高まることがあります。感覚には個人差がありますが、マインドフルネスなどの瞑想や、感覚の使用を工夫することができます。イメージの使用や、視覚や聴覚などいくつかの感覚を使用することで、難しい概念も体得しやすくなります。第4回では、情報量の多いことや複雑な概念でも、音楽やイメージを使用して理解が進むことを体験できる回にします。

第5回：7月4日（土） 13:00～14:30

「仲間」と話して学習する

誰かと学ぶ、ことは学習にとっても有効です。人に話すことで知識が「生きた知識」に変わります。しかし、人と協調して学習する時に大事なことは、1人で学習するときとは異なる脳のモードにする必要があるというものです。人はこのスイッチを切り替えられれば、同調し協力しやすいようにできています。第5回では、それ以前の回に学習した、心、場所、身体、感覚についての知見も復習しながら、自分らしい学習法について、具体的な方法を参加者の中でお互いに話す時間にし、本講座における「メタ学習」すなわち“学習の学習”の締めくくりに時間をします。

コース 10：基礎から学ぶ発達心理学

講師 横嶋 敬行 (信州大学 総合人間科学系 教職支援センター 助教)

時代の変化が激しい現代では、子育てや職場での人間関係、自分自身の生き方について悩みを感じる場面が増えています。発達心理学は、人が生涯を通してどのように成長し、変化していくのかを理解することで、そうした悩みを考えるための土台となる学問です。

本講座では、胎児期から老年期に至るまでの各発達段階の特徴について、発達心理学の基礎的な考え方をもとに学んでいきます。心理学が初めての方や、久しぶりに学び直したい方でも安心して参加できるよう、基本的な内容を中心に、身近な例を交えながら解説します。

また、「自尊感情・自己肯定感」や「向社会性（思いやりの心）」といったテーマについては、私の専門分野として、最新の研究知見にも触れながら、少し深く考えていきます。発達の視点から人を理解することが、日常生活や人との関わりを見つめ直すきっかけとなれば幸いです。

[*2025 年度開講の「基礎から学ぶ発達心理学」と同様の内容です。2025 年度に受講された方は、私のもう一つの講座「基礎から学ぶ教育心理学」の受講をおすすめいたします。](#)

第1回：5月16日（土） 13:00～14:30

発達の理論

発達とは何を意味するのか、発達は遺伝と環境のどちらによって形づくられるのか、といった基本的な問いを手がかりに、人の成長や変化の捉え方について学んでいきます。本講義では、発達心理学における代表的な理論を取り上げながら、発達を理解するための基礎的な考え方について概説していきます。

第2回：5月23日（土） 13:00～14:30

胎児期から幼児期の発達

胎児期から幼児期（おおよそ6歳頃まで）にかけての発達について概説します。この時期の子どもが世界とどのように関わり、運動や認知の力をどのように身につけていくのかを取り上げるとともに、この時期の重要な発達課題である愛着（アタッチメント）の形成と、それを支える養育者の関わり方について、基礎的な視点から学んでいきます。

第3回：6月6日（土） 13:00～14:30

児童期の発達

児童期（小学校1年生から6年生まで）の発達について概説します。この時期は、認知の力が大きく発達し、自分や他者に対する考え方や行動が大きく広がっていく時期です。また、近年注目されている「ありのままの自己肯定感」の基礎が形成される重要な時期でもあります。本講義では、最新の自己肯定感・自尊感情研究の知見にも触れながら、この時期の発達の特徴を学んでいきます。

第4回：6月20日（土） 13:00～14:30

青年期の発達

青年期（中学校1年生から大学生頃）は、対人関係のスキルや自分らしさ（アイデンティティ）が大きく発達する時期です。この時期に形成される考え方や人との関わり方は、成人期以降の人生にも大きな影響を与えます。本講義では、青年期の発達の特徴を概説するとともに

に、向社会性（思いやりの心）に関する最新の研究知見にも触れていきます。

第5回：7月4日（土） 13:00～14:30

成人期以降の発達

最後は、成人期（25歳頃～40歳頃）、中年期（40歳頃～65歳頃）、老年期（65歳以降）の発達について概説します。成長期を過ぎると、心身のさまざまな機能に変化や衰えが見られるようになりますが、この時期の発達の特徴を理解し、自身の人生と向き合っていくことが、よりよい生き方につながると考えられています。本講義では、「幸福な老い（サクセスフル・エイジング）」をキーワードに、成人期以降の発達について学んでいきます。

コース 11：続・フランス詩歌の魅力

講師 吉田 正明 （信州大学 名誉教授）

昨年に続き、前半はフランスの名詩を取り上げ、原詩のもつフランス語の美しい響きを味わうとともに、取り上げた詩人の紹介とフランス文学史における位置づけなど、時代背景とともに解説します。後半は、フランスの文学的シャンソンの名曲を鑑賞します。時間が許せば、フランスのあまり知られていない観光名所を紹介したいと思います。

※フランス語が分からない方でも受講可能です。

第1回：5月16日（土） 13:00～14:30

マルスリーヌ・デボルド＝ヴァルモールの恋愛詩

マルスリーヌ・デボルド＝ヴァルモール Marceline Desbordes-Valmore (1786-1859) は生涯を通して愛を歌い続けました。独身の時には恋人への愛を、結婚してからは夫への愛を、子どもが生まれてからはわが子への愛を、老いてからは人間への愛を歌いました。そんな彼女の恋愛詩の中から最も有名な「サーディの薔薇」*Les Roses de Saadi* を取り上げて鑑賞します。文学的シャンソンはジョルジュ・ブラッサンスの「ある笛吹の物語」*Le petit joueur de flûteau* を鑑賞します。

第2回：5月23日（土） 13:00～14:30

アルフォンス・ド・ラマルチーヌの抒情詩

ロマン派を代表する詩人のひとりで、フランスにおける近代抒情詩の祖といわれ、ヴェルレーヌや象徴派にも大きな影響を与えたアルフォンス・ド・ラマルチーヌ Alphonse de Lamartine (1790-1869) を取り上げ、自らの恋愛体験にもとづいて書かれた「みずうみ」*Le lac* を鑑賞します。この詩は、彼が愛した年上の既婚女性との出会いと死別をテーマにした珠玉のエレジーで、フランス語の響きが最大限に生かされた抒情詩の傑作といわれています。文学的シャンソンはレオ・フェレがアポリネールの詩に曲付けして歌った「ミラボー橋」*Le Pont Mirabeau* を鑑賞します。

第3回：6月6日（土） 13:00～14:30

孤高の詩人アルフレッド・ド・ヴィニー

フランスロマン派4大詩人のひとりに数えられる哲学詩人アルフレッド・ド・ヴィニー Alfred de Vigny (1797-1863) を取り上げます。この孤高の哲学詩人にとって中心的な観念となったのは、天才には避けがたい孤独、人々の無関心、女の裏切り、悪を前にした時の自然の平穏と神の沈黙といったペシズムと、それに対抗する勇気、自己犠牲、克己心です。そのような彼の思想が端的に表された詩「狼の死」*La Mort du Loup* を取り上げます。文学的シャンソンは、アラゴンの詩にブラッサンスが曲付けして歌った「幸せな愛はない」*Il n'y a pas d'amour heureux* を鑑賞します。

第4回：6月20日（土） 13:00～14:30

心情の詩人アルフレッド・ド・ミュッセ

ランボー同様、早熟な天才詩人でありロマン主義の申し子といわれたアルフレッド・ド・ミュッセ Alfred de Musset (1810-1857) の「五月の夜」*La nuit de mai* を取り上げます。彼

の夜をテーマにした4篇の詩は、英国詩人ヤングの『夜』(1742-45)に着想を得たものですが、1835年春から1837年秋までの2年半にわたる恋愛感情の時間的経過を追った詩人の内面の記録となっています。文学的シャンソンは、コスマが曲付けしたプレヴェールの「バルバラ」*Barbara*を鑑賞します。

第5回：7月4日(土) 13:00～14:30

ジェラルール・ド・ネルヴァルについて

ジェラルール・ド・ネルヴァル Gérard de Nerval (1808-1855) は、神秘思想、幻想、夢、狂気、素朴な民謡といったテーマを深く追求し、後の象徴主義やシュルレアリスムに大きな影響を与えたことで知られています。彼の「シダリーズ」*Les Cydalises* と「廃嫡者」*El Desdichado* を取り上げます。文学的シャンソンは、ブラッサンスの「澄んだ泉のほとりで」*Dans l'eau de la claire fontaine* を鑑賞します。

コース 12 : アメリカの TV ドラマをスクリプトと映像で楽しむ

— *Are You Afraid of the Dark?* を教材に英語と文化を学ぶ

講師 近藤 富英 (信州大学 特任教授)

本講座では、1990 年代にアメリカで放送され、日本でも配信されている子供向けホラー・ドラマシリーズ *Are You Afraid of the Dark?* (「暗闇が怖い?」) の中から “The Tale of the Nightly Neighbors” (「夜ごとの隣人」) というエピソードを取り上げ、英語表現と物語の両方を楽しみながら学びます。本シリーズは、子供たちが Midnight Society (真夜中クラブ) というグループを作り、週に一度森に集まり、キャンプファイヤーを囲んで順番にゴースト・ストーリーを語る、という枠物語の形式で構成されています。登場する英語表現や語彙を分かりやすく解説するとともに、アメリカの社会・文化的要素にも触れ、英語を単なる「ことば」としてではなく、「文化の中で使われる表現」として理解することを目指します。英語学習に興味のある方、海外ドラマを使って楽しく英語に触れたい方はもちろん、怖い話が好きな方も、少し苦手な方も、どなたでも歓迎します。予備知識は必要ありません。なお、毎回、星新一『午後の恐竜』の漫画版を英語で読み、短い英語表現やオチのある物語表現も読んで学習します。クイズなども盛り込みながら英語をトコトン楽しみます。レジュメはこちらで準備します。英語は中学校程度でも大丈夫です。

第1回：5月16日(土) 15:00～16:30

Are You Afraid of the Dark? (1)

(エピソードの内容) エマ (Emma) とディディ (Dayday) の姉弟の家の隣りに、ある晩、引っ越ししてきた人たちがいました。黒づくめで夜に引っ越しをする奇妙な人たちを二人は不思議に思います。

イディオムや英語的な表現を確認しながら、映像でお話を楽しみます。

『午後の恐竜 (1)』も日本語と英語で読みます。

第2回：5月23日(土) 15:00～16:30

Are You Afraid of the Dark? (2)

(エピソードの内容) 郵便配達人のミッシェルさんはどうも具合が悪そうです。それもあの人たちが引っ越ししてきた夜からのようです。

『午後の恐竜 (2)』も英語と日本語で読みます。

第3回：6月6日(土) 15:00～16:30

Are You Afraid of the Dark? (3)

(エピソードの内容) エマはある考えに到達しますが、それは彼女にとっても信じがたいものでした。

『午後の恐竜 (3)』も英語と日本語で読みます。

第4回：6月20日(土) 15:00～16:30

Are You Afraid of the Dark? (4)

(エピソードの内容) エマは隣人の地下室に忍び込んで、その正体を探ろうとしますが...

『午後の恐竜 (4)』も英語と日本語で読みます。

第5回：7月4日（土） 15:00～16:30

Are You Afraid of the Dark? (5)

（エピソードの内容） エマとディディが見たものは、そして彼らの本当の正体は…

『午後の恐竜 (5)』 も英語と日本語で読みます。

コース 13 : 大人のための数学再発見

—数学教育の視点で学ぶ、つながる数学—

講師 藤川 真美乃 (元信州大学 全学教育機構 特任助教)

数学というと、「正解を早く出すもの」「苦手な人には難しいもの」そんな印象を持っている方も多いかもしれません。しかし本来の数学は、世界や人生を少し違った角度から眺めるための「思考のレンズ」のような存在です。この講座では、公式や計算を急ぐのではなく、図形を描いたり、紙を切ったり、立体を組み合わせたたりしながら、数学の考え方を体験として味わいます。

パスカルの三角形、フィボナッチ数列、関数と面積、確率、論理、そして無限。一見ばらばらに見える話題が、「積み重ねる」「変化を見る」「近づく」「信じる」という私たちの日常や人生の感覚と深くつながっていることに気づきます。大学の数学教育という授業の切り口で高校までの範囲を中心に据えながら、大学数学につながる発想にも無理なく触れ、大人になった今だからこそ見えてくる数学の面白さを、あらためて再発見する体験型講座です。数学をもう一度学びたい方、数学の教え方のヒントを得たい方、どちらにもおすすめです。

第1回：5月16日(土) 15:00～16:30

足し算から広がる世界 —パスカルの三角形とフラクタル模様—

足し算を重ねていくだけで、規則と美しい模様が浮かび上がります。パスカルの三角形を実際書き、色を塗り、「選び方」の数がどのように増えていくかを体感します。組み合わせ確率やフラクタル幾何学にも触れながら、物事の全体構造を見渡す視点、構造をみる楽しさを体験します。

第2回：5月23日(土) 15:00～16:30

数の並びが語る、成長のリズム —フィボナッチ数列と関数の始まり—

数を並べていくだけで、自然界にも現れる不思議なリズムが生まれます。フィボナッチ数列や黄金比を描き、螺旋を作り、増え方のグラフを手で確かめます。成長が直線ではないことを、実感として味わう回です。数列や、極限の考えにも触れます。

第3回：6月6日(土) 15:00～16:30

変化をとらえるという発明 —面積から考える微積分—

完璧でなくても近づくことができるという数学の発想を体感します。曲線の下を面積を、短冊に分けて近似し、細かく分けるほど確かな値に近づいていくことを、実際に形を刻んで並べてみて体験します。また、「今、どれくらい増えているか」を見る微分の考え方にも触れます。変化を見る視点と、積み上げる視点、数学がこの2つの行き来した理由を掴みます。

第4回：6月20日(土) 15:00～16:30

全てが見えなくても、どう信じるか —数学的帰納法と無限—

「最初が正しく、次も正しいなら、ずっと正しい」この一見大胆な考え方を図や身近な例えを使って体験します。無限に続くものを、どうやって「正しい」と言いきれるのでしょうか。数学的帰納法には、「確かめる」から「信頼する」への発想の転換があります。最初はハノイ等の立体パズルを体験しながら、無限との向き合い方や、手順や仕組みを信頼するための論

理を体得し、大学数学でも重視される「証明」の考え方を理解します。

第5回：7月4日（土） 15:00～16:30

不確実な世界を楽しむ ―確率・関数・論理パズル―

最後は「すぐに答えの出ない問題」を楽しむ回です。直感が裏切られることを楽しむ回です。確率の問題や論理パズルに取り組みながら、「なぜそう感じたのか」「別の考え方はあるか」を体験します。確率は不確実さを排除するためではなく、不確実な世界と付き合うための知恵です。講座全体を振り返りながら、考えることそのものの楽しさ、数学的発想を日常に取り入れる工夫の話をしてします。本講座が、数学の奥深さの再発見につながり、世界や身近な出来事を精細に捉えるための、「思考レンズ」を磨く機会になれば幸いです。

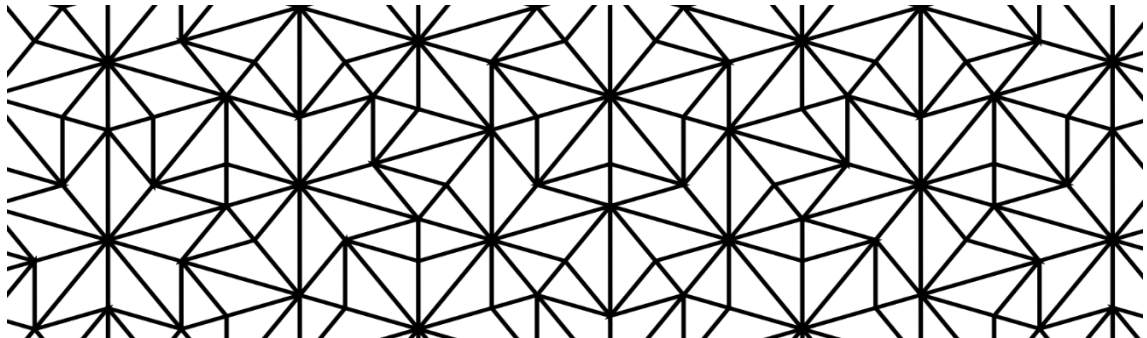
コース 14：タイル張りの数理

講師 永井 康史 (信州大学 総合人間科学系 教育・学生支援機構 講師)

※ 「全3回 受講料5,400円」

外壁、浴室やキッチンのように水が掛かるところには、耐水性だけではなく、装飾性も高めるためにタイルを張ります。このとき、壁や床の平面にタイルを隙間なく張るにはどのような形のタイルをどういうふうに張ればよいでしょうか。また装飾性を高めるために、五角形のような多角形も入れて隙間なく張ることはできるでしょうか。この講座では「タイル張り」について、数学の目から見ていきます。下の図はペンローズ (Penrose) タイルと呼ばれるものです。五角形の星の形が見えるでしょうか。タイル張りは図形や空間を扱う分野である幾何学の内容になりますが、図形や空間とあまり関係がなさそうな解析学や数論など数学の他の分野とも実は関係が深いのです。また 2011 年のノーベル化学賞の受賞対象である準結晶（結晶でも非晶質でもない第3の固体とも言われる）もこの「タイル張り」の原理で説明することができるように、化学や物理とも関連があるのです。この講座ではタイル張りの対称性（図形や空間について考えるとき、対称性が大事な視点）に焦点を当て、周期性やパターンの繰り返しについて説明していきます。

高校数学程度の予備知識があれば理解できると思いますが、できれば「集合と写像」について慣れているとよいです。



【 ペンローズ・タイル張りの一部分 】

第1回：5月16日 (土) 10:00～11:30

周期的タイル張り

数直線と平面（曲がっていない、通常の平面で、ユークリッド平面）におけるタイル張りとしてそれらにみられる周期性（対称性の一種）を見ていきます。そして、平面に周期的にタイルを張るとき、タイルの形とその対称性（壁紙群）としてどのようなものが現れるのかを学んでいきます。

第2回：5月23日 (土) 10:00～11:30

非周期的タイル張りの構成

今回は非周期的なタイル張りについて見ていきます。Penrose タイルなど、非周期的なタイルを紹介した後、最近解決された einstein 問題（物理のアインシュタインとは無関係）についても見ていきます。最後に非周期的なタイル張りを構成する手法である「置換規則」について学んでいきます。

第3回：6月6日（土） 10:00～11:30

非周期的タイル張り内の等差数列

タイル張りにおけるパターンの分布の一種である「等差数列」について学びます。例えば数
をある規則で並べると、以下のような数列になります。

0110100110010110・・・

並び方をよく見ると、下線の0は等間隔で並んでいることがわかります。このようなものを
0の等差数列と呼びます。同じようなことをタイル張りで考えたものがタイル張りの等差数
列です。このタイル張りの等差数列の長さについての定理を紹介し、さまざまな等差数列を
持つ具体例についても見ていきます。

コース 15：河川が作る地形・地質を学ぶ

～現場をよく見て納得する～（大塚コース）

講師 大塚 勉（信州大学 名誉教授）

※日曜日開催で、申込方法等が他の講座と異なります。

河川は町の中や自然の中でいろいろな地形を作りだしています。私たちは変化に富んだ地形をみて楽しみ、そのできかたについて思いをめぐらせます。今回は、そのような河川が作る風景の中に立ち、いつもとは違った視点で、河川が作った地形・地質を考えます。

この講座では、初日の冒頭に教室で現地の地形・地質について学んだうえで、マイクロバスで現地を訪れます。現地見学は日帰りで2回実施します。

第1回目は松本市内の薄川・田川・梓川を巡り、かつての河川が作った微妙な地形を観察します。いつも見慣れている河川の地形に残された微妙な特徴から、かつての河川のようすを考えます。

第2回目は伊那谷の中川村・飯島町・伊那市を訪れます。まず伊那谷を眺めおろして全貌を理解し、その後、河川が作った河岸段丘や活断層による変動地形を観察します。扇状地を開析した河岸段丘と、そこを通過する鉄道のΩカーブも訪れます。

野外での行動には危険はありませんが、不整地や未舗装の道を歩くこともありますので、動きやすい服装と履きなれた靴でご参加ください。雨天でも実施します。

第1回：5月17日（日）

松本市内の河川（講義＋日帰りの現地見学）

9:00～10:00 教室で講義 その後バスに乗車

17:30頃 松本駅帰着、その後信大に帰着

1. 薄川の旧流路（松本市金華橋、深志長沢川）
2. 田川ほとりの城館-井川城（松本市井川城）
3. 梓川の旧流路（松本市島内）
4. 犀川熊倉の渡し（安曇野市豊科高家）

第2回：5月31日（日）

段丘崖と断層崖（日帰りの現地見学）

9:00 松本駅アルプス口に集合 バスに乗車 18:00頃 松本駅で解散

5. 陣馬形山から眺める木曽山脈と伊那谷（中川村陣馬形山）
6. 河岸段丘に変位を与える田切断層の断層崖（上伊那郡飯島町）
7. 開析扇状地と飯田線のΩカーブ（上伊那郡飯島町中田切川）
8. 大規模な段丘崖（駒ヶ根市）
9. 河岸段丘に変位を与える小黒川断層の断層崖（伊那市）

（両日とも、計画作成後の現地の状況の変化や当日の条件によって、内容や訪問順序を変更することがあります。）

【定員について】

20名（第1回目と第2回目はセットになります。）

【受講料以外の費用について】

受講料以外に、マイクロバス・高速代・保険料などをご負担いただきます。

定員（20 名）に達した際のご負担額は、お一人様あたり約 10,000 円（2 回分の合計、昼食代は含まず。）となります。金額の詳細は事前にご連絡しますので、第 1 回目の講座のときにご用意をお願いします。なお、参加費には当日の旅行保険の費用が含まれています。

■ 受講料 （コースによって、別途テキスト代が必要になる場合があります。）

コース 1 ～コース 13	6,400円
コース 14	5,400円
コース 15（大塚コース）	7,400円（別途交通費等 約10,000円）

■ 時間別コース表

開講時間	コース名
10:00～11:30	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AIを活用できる毎日（鈴木） ・日本は「会計」の力がすごかったPART2（田村） ・The Warm War（ブライアリー） ・基礎から学ぶ教育心理学（横嶋） ・タイル張りの数理（永井）（全3回）
13:00～14:30	<ul style="list-style-type: none"> ・総合人間科学研究の最前線（オムニバス） ・「日本文学100年の名作」に酔う（株丹） ・クマのプーさんの世界（近藤） ・異文化コミュニケーション入門（仙石） ・「学び」をデザインする ～生涯学習を楽しむための心理学～（藤川） ・基礎から学ぶ発達心理学（横嶋） ・続・フランス詩歌の魅力（吉田）
15:00～16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカのTVドラマをスクリプトと映像で楽しむ（近藤） ・大人のための数学再発見（藤川）

■ 日程表

開講日時	10:00～11:30	13:00～14:30	15:00～16:30
5月16日 （土）	鈴木・田村・ブライアリー・横嶋・永井（第1回）	オムニバス・株丹・近藤（プーさん）・仙石・藤川（学び）・横嶋・吉田（第1回）	近藤（TVドラマ）・藤川（数学）（第1回）
5月23日 （土）	鈴木・田村・ブライアリー・横嶋・永井（第2回）	オムニバス・株丹・近藤（プーさん）・仙石・藤川（学び）・横嶋・吉田（第2回）	近藤（TVドラマ）・藤川（数学）（第2回）
6月6日 （土）	鈴木・田村・ブライアリー・横嶋・永井（第3回）	オムニバス・株丹・近藤（プーさん）・仙石・藤川（学び）・横嶋・吉田（第3回）	近藤（TVドラマ）・藤川（数学）（第3回）
6月20日 （土）	鈴木・田村・ブライアリー・横嶋（第4回）	オムニバス・株丹・近藤（プーさん）・仙石・藤川（学び）・横嶋・吉田（第4回）	近藤（TVドラマ）・藤川（数学）（第4回）
7月4日 （土）	鈴木・田村・ブライアリー・横嶋（第5回）	オムニバス・株丹・近藤（プーさん）・仙石・藤川（学び）・横嶋・吉田（第5回）	近藤（TVドラマ）・藤川（数学）（第5回）

5月17日(日) 9:00～17:30 (※)	大塚(第1回、教室での講義+日帰りの現地見学)
5月31日(日) 9:00～18:00 (※)	大塚(第2回、日帰りの現地見学)

(※) 大塚コースの終了時間は目安です。

■ 開講場所

信州大学 全学教育センター 共通教育第1講義棟(松本キャンパス)
〒390-8621 松本市旭3-1-1

■ 申込方法

「コース1～14」と「コース15 大塚コース」は、申込方法が異なります。

<「コース1～14」の申込方法>

(1) 申込方法

「土曜市民教養教室専用の振込用紙」での入金をもって申込みとなります。

※その他の入金方法をご遠慮ください。

(2) 受講料の入金

振込用紙記載の希望するコース番号に丸印をして、郵便局・ゆうちょ銀行からお振込みください。
振込手数料は各自でご負担ください。

(3) 申込(受講料入金) 期限

2026年3月19日(木)

◎ 「土曜市民教養教室専用の振込用紙」の請求方法

以下の「請求フォーム」または「2次元コード」より請求をお願いします。

【振込用紙請求フォーム URL】

<https://forms.gle/FgqkN2LrxMqgXBP87>

【2次元コード】



<請求フォーム、2次元コードでの請求が難しい方>

ハガキに、①郵便番号と住所 ②氏名 ③電話番号 ④「土曜市民 振込用紙希望」と明記の上、「信州大学 学務部学務課教務グループ」(〒390-8621 松本市旭3-1-1)宛に請求してください。

※ご請求の方には近日中に郵送します。郵送には数日お時間をいただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

＜「コース15 大塚コース」の申込方法＞ ※ バス利用のため、定員20名

(1) 応募方法

以下の「応募フォーム」または「2次元コード」より応募をお願いします。

【大塚コース応募フォーム URL】

<https://forms.gle/5VDxNwKknNU43rRu6>

【2次元コード】



応募期限 **2026年2月20日（金）（必着：郵送の場合）**

＜応募フォーム、2次元コードでの応募が難しい方＞

ハガキに、①郵便番号と住所 ②氏名 ③電話番号 ④「土曜市民 大塚コース希望」と明記の上、
「信州大学 学務部学務課教務グループ」（〒390-8621 松本市旭3-1-1）宛にお送りください。

※フォーム、2次元コード、ハガキ以外による受付はしません。



(2) 受講者の決定

定員は20名です。応募多数の場合は抽選で受講者を決定し、結果は応募者全員に3月10日（火）までに郵送でご連絡します。



(3) 受講料の入金

当選者には「大塚コース専用の振込用紙」を同封して郵送しますので、郵便局・ゆうちょ銀行から受講料を振り込んでください。入金をもって申込みとなります。振込手数料は各自でご負担ください。

- ・必要事項の記載がないものは、無効となる場合があります。
- ・残念ながら抽選に漏れてしまった方はキャンセル待ちとさせていただき、欠員が出た際にはこちらから連絡する場合があります。

■ その他

- ・ご入金後の受講料は、自己都合のキャンセル等による返金はできませんのでご注意ください。
- ・各コースとも原則として6名以上の申込みで開講となります。最低開講人数に達しない場合は、開講しないことがありますのでご了承ください。その際は申込者に連絡し、受講料はご返金します。
- ・期日までに申込手続きを完了した方には、4月末日までに「受講に関する案内等」を送付します。
- ・いただいた個人情報は、土曜市民教養教室の目的以外には使用しません。

■ 問い合わせ先（申込み等について）

◎ 信州大学 学務部学務課教務グループ 井上・中川

TEL: 0263-37-2870（受付時間：平日10時～15時）〒390-8621 松本市旭3-1-1

■ 問い合わせ先（講義内容等について）

◎ 土曜市民教養教室 公開講座運営委員会

勝木 明夫（代表） TEL: 0263-37-3062（研究室） E-mail: akatuki@shinshu-u.ac.jp

小池 洋平（副代表） TEL: 0263-37-3129（研究室） E-mail: koike@shinshu-u.ac.jp